

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 石原 修治

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

(2)大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

大阪市の「夏休み親子議場見学会」は、コロナ禍の時期は中止となったものの、平成9年度から継続的に実施されている。その趣旨は、議会の広報事業の一つとして、次代を担う子どもたちとその保護者に市会や市政に理解と関心を深めてもらうことを目的として、毎年小学校3～6年生の児童とその保護者を対象に、夏休み期間中に開催している。令和5年度は、応募総数391名の中から抽選で132名が参加され、午前・午後の2部制で実施した。「おおさか子ども議会」や「高校生と大阪市会議員との意見交換会」なども実施されている。

「所感」

流山市議会は平成13年7月の地方分権検討協議会設置以降、「市民に開かれた議会」の実現のため市議会の活性化に取り組んできており、毎年議会報告会や高校生議会（過去1回実施）を実施してきた。今後さらに市民に身近で親しまれる市議会を目指し、次代を担う子どもたちにも市議会や市政に理解と関心を深めてもらうものとして、今後何をすべきかを検討していく上で、大いに参考になった。

（2）大阪府茨木市

- ・オンライン委員会について
- ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

オンライン委員会については、コロナ禍において令和4年1月27日、1月28日の合計2回実施。（一人の委員がオンラインでの参加）オンライン委員会を進める中で浮き彫りとなった課題として、申請できる条件や基準、オンライン参加できる委員の範囲などや実施に係る具体的な方法についてなどがあり、対応策として委員会条例の改正、「重大な感染症」の定義については、新型コロナウイルス感染症に限定。詳細事項を定めた実施要項を策定し対応した。

「所感」

茨木市では現状「新型コロナウイルス感染症」に限定しているが、本市議会として今後オンライン委員会を進めていく上では、将来的に考えICTの活用の中でその活用の範囲を広げることも視野に入れて検討していくべきと考える。

タブレット端末を活用したペーパーレスについては、議会運営委員会において段階的に協議を進めており、令和5年度末現在、定例会で必要な資料の多くがタブレットによる閲覧が可能となっている。タブレットに不慣れな議員向けにマニュアル（Q&A）を作成

しタブレット内に掲載しており、現在の議員28名中、紙派議員は2名となっている。ただし、安全を期するために各会派に1部ずつの配布は行っている。また、定例会の資料以外に、執行部からの情報提供や各種行政計画等もタブレットで対応している。タブレット使用の中で、禁止事項として一部のアプリなどに制限をかけているものもある。現状からほとんどペーパーレス化することができるようになったとのこと。

「所感」

ICT活用によるタブレット端末導入している議会も増えている中、中々ペーパーレス化までには至らない議会が多いと仄聞している。その原因としては、タブレット操作が不慣れなことでペーパーレス化の意思統一が難しいことが挙げられている。流山市議会も令和5年度当初からタブレット端末を導入し改革を進めているが、操作が不慣れな議員に対するフォローをどのように行っていくかが課題と考える。茨木市の内容を参考にして、今後の対応を再検討していきたい。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 戸 辺 滋

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1) 大阪府大阪市

- ・夏休み親子議場見学会について

(2) 大阪府茨木市

- ・オンライン委員会について
- ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1) 大阪府大阪市

- ・夏休み親子議場見学会について

大阪市会では、次代を担う子ども達が議会や市政への関心をより深めていただけるよう、平成9年度から夏休み期間中を利用して、「夏休み親子議場見学会」を開催している。この見学会は、市内在住または在学の小学校3年生から6年生の児童とその保護者を対象とし、午前・午後の一日2回に分けて開催しており、参加定員は2回合わせて160名としている。見学会では、市会のしくみを学習できる動画視聴や市会に関するクイズ、施設内の見学などで構成されており、毎年定員を大幅に上回る参加希望申込みがあり、開催後のアンケートでも児童・保護者共に満足度の高いものとなっている。

視察を通じて特に印象に残った点をいくつか挙げると、参加し

た誰もが楽しめる企画となっている点が挙げられる。クイズについても堅苦しく難解なものは避け、宝探しのようなゲーム感覚の要素を含ませるなど、児童が関心を持ち続けるための様々な配慮が感じられた。また、修了証の授与や記念品の贈呈など、参加児童を喜ばせる配慮も重要であると感じられた。

また、コロナ禍で開催できなかった時期こそあったが、長年にわたり継続的に開催していることは、大いに評価すべき点である。この点については、この見学会が議会主体ではなく、あくまで議会事務局が主体となって企画・運営していることや、企画内容を大きく変更することなく、引き継ぎながら運営していることなど、その要因がいくつか考えられるが、その取り組みを継続的に実施している点には驚かされた。

流山市議会でも平成28年7月に、市内にある県立高校6校から代表となる高校生議員28名を選出していただき、「高校生議会」を開催したことがあるが、残念なことに一度きりの開催となってしまった。この時は、代表の高校生議員が質問に立ち、市議会議員の代表が答弁する形式とし、活発な議論が交わされるなど充実したものとなったが、高校生議員や学校側にも事前の準備が必要になってくるなど、開催に向けての様々な労力が伴ったこともあり、継続的な開催には至らなかった。このことを踏まえると、大阪市会の取り組みのように、継続して取り組める開催方法の在り方について、考えるべき点は多いように思った。

## (2) 大阪府茨木市

### ・オンライン委員会について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、世界的にもオンラインによる会議が普及している中、一部の議会においてもオンラインを活用した委員会開催に取り組む議会が見受けられるようになった。今回は茨木市のオンライン委員会の状況について視察した。

茨木市では、委員会条例の一部を改正し、現状では新型コロナウイルス感染症に限定した上で、詳細事項を定めた実施要領を策

定している。なお、委員長のオンライン出席は認めておらず、あくまで委員のみの出席に限定されている。オンラインによる出席の要件については、委員会室と同等の環境での出席を求めており、セキュリティ面での万全な備えや委員会に関係しない音声や映像が入り込まないことなどとしている。これまでの実績については、令和4年1月開催の2回の特別委員会で、1名の委員がオンラインにより出席したことがあり、当初懸念されていた音声や映像の乱れもなく、無事に終了したとのことであった。

流山市議会においては、オンラインを活用した委員会の開催の議論はこれからであり、今後の在り方について検討する上でも今回の視察は大いに参考になった。

#### ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

流山市議会でも昨年より新たに各議員に1台ずつのタブレット端末を貸与し、ペーパーレス化に向けた取り組みが始まったが、先行事例として茨木市議会の現状について伺った。

茨木市におけるタブレット端末導入のきっかけとなったのが、平成30年に発生した大阪北部地震であり、この震災により各議員から市当局に問い合わせ等が集中し、混乱をきたすことがないよう、情報提供のためにツールとしてタブレット端末の貸与が開始された。その後もこのタブレットを活用し、定例会で必要な多くの資料を閲覧できるようにしており、議案書や参考資料、議事日程等をはじめ、各部局からの報告事項や各種行政計画等についても閲覧できるようになっている。また、不慣れな議員向けにマニュアルを作成しサイドブックに掲載するなど、より多くの議員が活用できるための配慮がなされている。一方で、紙媒体での配布を希望する議員への紙での配布も実施しており、現在も数名の議員に配布しているとのことであった。

ペーパーレス化の効果については、残念ながら一年を通じたの議会全体での削減量及び削減額について未算出とのことであったが、予算書を一つの例として算出した額を見ると、一定の効果があることが確認できた。

流山市議会においてもペーパーレス化を進めるべく、紙媒体の資料配布の有無を都度、各会派に図るなどの取り組みを実施している最中であるが、茨木市議会のように活用のためのマニュアルの作成や研修の実施など、更なるフォロー体制が必要であると感じた。また、ペーパーレス化のためだけでなく、茨木市議会のように情報共有のためのツールとしての活用についても、今後議論の余地があるものと思った。

以上

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 川本 大岳

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

(2)大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

大阪市会では、平成9年度から多年にわたって夏休み期間中に「夏休み親子議場見学会」を開催してきており、市民に身近で親しまれる市会を目指すと共に、次代を担う子どもたちと保護者に議会や市政への理解と関心を深めてもらうことを目的としている。小学校3～6年生を対象としているこの事業は、令和5年度の開催では160名の定員に対して391名の応募があったとのことであるが、事業開始当初からこれほどの応募があったわけではなく、年を追うにつれて多くの応募がある人気事業となった歴史があるとのことであった。

政令市である大阪市会が実施しているということで、さぞ豪華な運営なのだろうと想像していたが、事業のメインである「謎解

き」で使うパネルは手作り感満載で到底お金をかけて行っているとは思いがたく、また参加者への記念品もその時々により部局が作成したノベルティを庁内からかき集めるなど、お金をかけるのではなく知恵を出して手間をかけて運営している点は意外であったし、どこか親近感を抱いた。

議会という場所は、子どもたちや保護者にとっては馴染みが無く、また敷居の高い少し離れた世界と思われがちかも知れないが、知恵を出して身近に感じられる工夫を凝らし、地道に継続していくということの大切さを感じた。

## ( 2 ) 大阪府茨木市

### ・オンライン委員会について

過去2回のオンライン委員会を実施した経験を持つ茨木市では、通信状況の不安定さや映像・音声の乱れといった様々なトラブルを想定した準備を行ってオンライン委員会を実施したことから、スムーズな運営が行えたとのことである。また、オンライン委員会開催のため、委員会条例を改正するなど、実施を想定した準備が周到に行われていたことが実際のオンライン委員会実施のために重要であると感じた。重大な感染症においてのみオンライン出席を認める運用であるとのことだが、今後不測の事態が生じた際に実施した経験があるということは、委員会運営の危機管理対策として非常に有効なことであると思った。

### ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

タブレット端末の導入に関しては、平成30年度に検討を開始し令和2年度に導入。現在は、紙資料を各会派に1部、議員個人への紙配布は2名(定数28名)とペーパーレスがもはや定着している状況とのことであった。その過程において、タブレット端末の操作を不得手と感じる議員に対してQ&Aを盛り込んだ操作マニュアルを作成するなど、様々な配慮や工夫があったとのこと。現在は、議会資料の印刷も可能となっており、議員が希望する個

別アプリのインストールについてもルール化され、本格的な運用が定着している様子をうかがうことが出来た。

ペーパーレスの効果の一例として、一般会計当初予算書はペーパーレス前は205冊作成していたものが現在は45冊の作成となり、実に160冊の削減に成功している。多くの部数を作成するため外部発注していた印刷費は約45万円を要していたが、部数が減り内部印刷で対応出来ることになった今では印刷費は2万円程度に止まり、こちらでも約43万円の削減となっている。

また、執行部においても議会が使用しているアプリ（茨木市ではサイドボックスを採用）を導入しており、定例会の資料配布以外に執行部側からの情報提供を行い、各種行政計画を掲載するなど、情報共有における取り組みも進んでいるとのことであった。

流山市議会では、タブレット端末導入からまだ半年という期間しか経っていないが、今回の視察で学ぶことが出来た様々な良い効果が本市議会において早期にもたらされるよう、推進を図りたい。ただ、私見として、今回の視察で茨木市が行っていることは、民間企業においてはもはや当たり前のことである。この程度のことを今どき学んでいるという議会の時代遅れや世間との感覚のズレはむしろ恥ずべきことと認識しなければならない。ICT化は目的ではなく手段である。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 西尾 段

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～同18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1) 大阪府大阪市

「夏休み親子議場見学会について」

(2) 大阪府茨木市

「オンライン委員会について」

「タブレット端末を活用したペーパーレスについて」

4 所感等

今回は大阪府内の二市を視察した。

1日目には大阪府で「夏休み親子議場見学会」について視察を行った。令和5年度は8月11日(金曜日)(祝日:山の日)に「夏休み親子議場見学会」を開催したそうです。毎年行う為、日程は山の日に固定し、学校や生徒保護者が予定し易い様に工夫をしている。応募者は391名あり、乱数表を使った抽選で159名が当選し、当日は132名の方が参加された。

この親子見学会は市民に身近で親しまれる市会をめざし、次の世代を担う子どもたちと保護者に議会や市政への理解と関心を深めていただくことを目的として、市内在住または在学の小学校3～6年生の児童とその保護者を対象に、平成9年度から夏休み期間中に開催している。20年以上続いていることから、ここで議場を見学した子どもが成長して市役所の職員になるなど長期的に開催している事からの嬉しい副産物も生まれている事が分かった。議場は通常は議員しか入れない場所ではあるものの、活用されて

いない時間も多いため、多くの市民が見学しやすい取り組みを行う事で議会を身近に感じてもらえて市制に興味を持ってもらうきっかけにもなると考える。ぜひ流山市でも気軽に議会に来れる様に取り組みをしていきたい。

2日目は大阪府茨木市に伺い、「オンライン委員会について」と「タブレット端末を活用したペーパーレスについて」の2項目について視察をした。オンライン委員会については新型コロナウイルス感染症が拡大した時期に家族が発症し、議員が濃厚接触者になった場合にも委員会に参加できる様に委員会条例を改正して準備をしていたところ、実際に家族が発症して濃厚接触者になった議員がオンラインで委員会に2回参加した。今回の条例改正では新型コロナウイルス感染症のみを対象とし、育児等の理由によるオンライン参加は認めなかった。

条例の見直しの際にはオンライン参加による弊害が起こる事を想定して見直しを行った。

- ・委員長は委員会の進行をする必要があるため委員長としてのオンライン参加は認めない
- ・各議員の自宅等のネットワーク環境が安定しているか確認が取れないため接続が不安点になる
- ・委員会中にオンライン参加の議員側で委員会に関係しない映像や音声が入り込む（子どもの写り込みや家族の会話など）
- ・複数のオンライン参加者がいる場合のハウリングなど

茨木市のもう一つの視察項目である「タブレット端末を活用したペーパーレスについて」では、ページ数の多い予算書の印刷費で年間約180万円かかっていた経費を原則印刷しない事として、どうしても紙の書類を希望する若干名の議員の分は議会事務局で個別に印刷して対応したそうとのこと。1部で数百ページある物の庁内の印刷機で印刷する事で経費を安く抑える事が出来たそうです。予算書に比べてページ数の少ない議案書などでも徹底的にペーパーレスを推進するため、原則的に紙の資料は用意しないが、強い要望が有る議員には個別対応する事で反対意見を弱める事が出来た様子。本市でもペーパーレスに取り組んでいるが、原則として紙の資料は用意しない様に徹底する代わりにどうしても紙の

書類を希望する議員には個別対応する方針が良いと考えます。  
茨木市の市民会館跡地の複合施設「おにクル」を自主的に見学した。おにクルは、ホールや図書館、子育て支援、市民活動センター、プラネタリウムなど、多くの機能が入る複合施設であり、実際に見学したタイミングでも多くの親子連れの利用者がいた。建物を建てる経費はかかるが、江戸川台のジェット口跡地活用などにも役立てるアイデアが多く見られた。

二市の視察を通して本市の議会の取組を改善するために役立てる事が多くとても有意義だった。今後の議会活性化に活かせる様に活動して参ります。

以上

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 藤井 俊行

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1) 大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

(2) 大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1) 大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

こども市会答弁は市長であった。議会として対応すると面白い。

小中学生の参加募集は、教育委員会が行う。

1年ごとに小学生と中学生で交互に開催している。

参加者の都合を考慮し、休日と平日と交互に実施している。

模擬委員会や模擬本会議なども開催した。

議場を使用し、高校生との意見交換会も実施した。

議員が9名の実行委員会として詳細の計画を行う。

議員2人に対して高校生4人で90分間の意見交換会も実施した。

子ども議会は、議長と副議長と6常任委員会委員長が対応。

流山市で導入するなら、中学生親子体験で議会がすべて対応してはどうか。

( 2 ) 大阪府茨木市

- ・ オンライン委員会について
- ・ タブレット端末を活用したペーパーレスについて

オンライン委員会について

令和 4 年 1 月 27 日市街地整備対策特別委員会

令和 4 年 1 月 28 日市民会館跡地等整備対策特別委員会

上記二つの委員会のみで実施した。子どもがコロナに感染し濃厚接触者となったため 1 人がオンライン参加となる。

通常の委員会や全議員等が対象ではなく、新型コロナウイルスの感染症によるオンライン委員会の開催のみとしている。

開催してみて、全体的にオンライン化するという声は起きていない。あくまで、新型コロナウイルス感染症の陽性者と濃厚接触者に特定している。流山市でも救済策として導入してはどうかと感じた。

タブレット端末を活用したペーパーレスについて

令和 5 年末現在定例会で必要な資料の多くが、タブレットによる閲覧が可能となった。

サイドボックスのソフトを使用している。50 ライセンスを契約。執行部のパソコンにもサイドボックスのソフトが入っており、予算書や議案のアップロードは、執行部が行う。

導入時に、サイドボックスと流山市導入のモアノートを検討した。当時は、モアノートは、携帯と同期するのに android に対応していなかったため、サイドボックスの導入を決めた。

導入の目的として、情報の共有が重要視されていた。その後、ペーパーレス化の方向性に進んでいった。

苦手な議員には、丁寧なサポートをしている。流山市でも課題。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 中川 弘

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

(2)大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1)大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

流山市に於いても小中学校の校外学習の一環としての議会見学会が実施されているが、学校のクラス単位ではなく児童(家庭)単位での申込となっている点が異なる。

申込は大阪市オンラインシステムを通じて行い、定員を超過した場合は抽選により(定員を上回る申し込みが恒常的にある)参加者を決定している。保護者同伴という事から、見学会の実施は平日と週末で行って来たが、保護者同伴であることや近年は事務局職員の代休が取りやすくなった事からコロナ後は週末開催としている。

また、ただ議会施設を見学するのではなく、クイズ形式の謎解きなど経て、最後に終了証を渡すと子どもたちに議会への興

味を引き出すような工夫が行われている。

併せて高校生市会（大阪市では市議会ではなく市会と呼ぶ）等についても説明があった。流山市においても平成28年に実施した経験があるが、当市と異なるのは見学会同様生徒単位での申込・抽選となっており実施方法は大きく異なる。

会議での答弁は市長が行い、その後小班に別れそれ班ごとに議員2～3名が付き高校生の議会における疑問や質問に答える形式となっている。当市の方式と比較して、学校側の負担が少ないメリットがあるが、市立高校が全て府立高校に移管されたことで参加者の募集に若干の支障が生じている。

#### 【所感】

見学会、高校生市会とも子どもたちに議会への興味を持ってもらう事を学校側の負担を軽減する形で実施している点、評価できる。

当市にでも何らかの方法（大阪市の方式をそのままコピーする必要は無い）を検討する価値は有ると感じた。

#### （2）大阪府茨木市

##### ・オンライン委員会について

委員会のメンバーのひとりがコロナウイルス感染症の濃厚接触者となったことから、Zoomを利用して委員会に参加する形態であり流山市議会でも一部会派より提案されているコロナ渦に広く民間などで行われていたオンライン会議とは全く異なるものであった。

あくまでもコロナウイルス感染症にかかわる例外的措置であり、その後、オンライン委員会はコロナの収束も有り開催されていない。また、自宅からオンライン参加した委員にはペーパーレス対応としてiPadのセルラーモデルが貸与されておりそれを利用したとの事である。

## 【所感】

オンライン委員会はいくまでも委員が会議に参加する権利を保障する手段のひとつとして実施されたものであり、所謂オンライン会議とは異なる事が判明した。一般のオンライン会議を委員会で行うことは現時点では時期尚早であると感じた。

### ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

導入のキッカケは、平成30年に発生した大阪北部地震の際に担当部署が現場対応に追われる中、各議員からの問合せを受け現場が混乱したことを踏まえ、情報共有の仕組みとしてiPad(セルラーモデル)とSideBooksを導入したものであり、現在は順次ペーパーレスの範囲を広げている。

機能の説明を受けたが、どちらかと言えば機能的にはクラウドストレージに近く、印刷なども自由に行える。流山市議会で導入しているmoreNoteの様なスケジュールとの連携機能などが無いなど仕組みは相当に異なる。

moreNoteも候補ではあったが広くスマートフォン等でも情報共有するニーズがあり、アンドロイドに対応できないため候補から外れたとの事であった。

ただ、SideBooks、moreNoteともに機能に一長一短がある。

また、事務局側の許可・操作は必要になるが、追加アプリの導入など認められている(有料アプリの場合、議員個人のAppleIDを紐づけることが出来る)。

## 【所感】

moreNoteはスケジュールとリンクしている反面、資料を保存するフォルダの構成に制限が生じてしまうという課題がある。今後、流山市議会においてもペーパーレスの範囲を拡大するにあたり以下の対応取るべきと感じた。

1. プリントアウト機能の設定
2. moreNoteの外にファイルを持ち出す権限の設定
3. 支給されるiPad Proへのアプリ追加は本会議場に持込

む事を今後も厳しく制限し、独自の環境を欲する議員は  
自前の PC、タブレットで moreNote を利用可能とする。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 おだぎり たかし

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1)大阪府大阪市

- ・夏休み親子議場見学会について

(2)大阪府茨木市

- ・オンライン委員会について
- ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1)大阪府大阪市

- ・夏休み親子議場見学会について

大阪市及び市会では、過去市長と議会、市長と市職員との関係悪化の歴史もあり、小学4～6年生までを対象とした子ども市会(市執行部主導)、高校生徒の市會意見交換会(議員主導)に加え、夏休み期間を活かした親子議場見学会(議会事務局・教育委員会主導、当選者数150名～160名に対し応募総数は360～390名)が実施されており、幾重にも市議会を体験するチャンスがある事は、規模の小さい本市だからこそ大いに活かす視点を考える。

前後準備時間を含め、「4時間/回」は全体的なコーディネーター兼仕切り役である議会事務局の負担が大きいと思われるが、人事異動があるとはいえ、業務として引き継ぐことができる職員

が支えていることは、継続性と一定の水準の維持確保という面からは良い判断ともいえる。しかし、本市議会のような議会事務局体制では負担が集中すると思われることから、議員と事務局が一体的に、体験と、短さ、そして真剣さを体験できるか「場」の確保が良いと思われる。

## ( 2 ) 大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

オンライン委員会は、対象を新型コロナウイルス感染症、委員会の委員に限定されていることは、賢明な判断と思われる。

議員の委員会発言権を確保しつつも、だからと言って、なんでも制限なく、誰もが正当な理由なく、リモートで委員会に参加することは大いに問題があると考ええる。

委員会の議案は、事前に配布されているとはいえ、委員会の質疑応答は、「生きたやり取り」があり、事前にすべての態度を明確にできるものではない。また、質疑の趣旨や目的が全委員と理事者側に伝わり、建設的、かつ論戦の場の向上としては、リモートに限界が生じていると捉えている。

またタブレットについては、ペーパーレスの効果はあるものの、議員自らの能力が最大限発揮され、3つ、4つの資料を同時に見比べ、質疑を組み立てる能力と、その能力を駆使し、市政をチェックする技術や知恵に変える必要がある。アナログでは可能であっても、不慣れなタブレットで変換・活かせる保証はない。

逆に言えば、タブレットを動かせる（活かせる）範囲でしか、議員の能力が発揮できず、市政をチェックする視野を限定する可能性を持っているのではないかと危惧するものである。

まずは本市の取り組み通り、得意な議員がどんどん先進的な取り組みを実施し、議員間へ伝播して頂き、大いに能力が発揮できる環境を整えて頂ければと考える。

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 坂巻 儀一

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和6年1月17日(水)～1月18日(木)

3 視察地及び調査事項

(1) 大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

(2) 大阪府茨木市

・オンライン委員会について

・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

4 所感等

(1) 大阪府大阪市

・夏休み親子議場見学会について

子ども議会の開催については、市民に身近で親しまれる市会を目指して議会の広報事業の一つとして、次代を担う子どもたちとその保護者に市会や市政に理解と関心を深めてもらうことを目的とした趣旨のもと、平成9年7月8日の各派幹事長会議において平成9年度から実施することが決定された。

内容として市会の役割や仕組みなどについての動画を視聴した後、市会本会議場や委員会室などを市会に関係する手作りのクイズを解いてもらいながら案内をしていくという謎解きゲーム形式で子どもたちの興味を引き付けていく手法は興味深いものであった。コロナ禍では一時開催を見送ったそうだが、令和4年も5年

も応募総数 350 人超の中、当選者 150 名強という人気を博している点、継続された取り組みは素晴らしいと感じた。

## ( 2 ) 大阪府茨木市

- ・オンライン委員会について
- ・タブレット端末を活用したペーパーレスについて

茨木市におけるオンライン委員会の開催はお子さんがコロナに罹患し濃厚接触者となった委員へのコロナ対策として令和 4 年 1 月の市街地整備対策特別委員会と同月の市民会館跡地等整備対策特別委員会の合計 2 回開催された。

実施にあたり想定された課題として、接続が不安定になる、委員会に関係ない映像や音声が入り込む、マイクのハウリング等が懸念されたそうだが実際には起こらなかったという。また、開催にかかる課題としてオンライン委員会を実施可能とするために委員会条例を改正したこと、また、「重大な感染症」の定義については、新型コロナウイルス感染症に限定されたという。流山市議会においても同様の問題が浮き彫りになりそうであるが、世界的に様々な企業や組織体などのオンライン会議への推進に鑑みても時代の潮流としては、通常は議場・委員会室への出席は前提条件としても、コロナ等感染症蔓延時の対策のみならず、その他の諸事情により現場出席が困難な場合なども委員会をはじめ様々な会議のオンライン出席が可能とされるよう前進的な取り組みを協議・検討していかねばならないと感じた。

タブレット導入に関しては、利用しているアプリは流山市のモアノートに対してサイドブックを活用とのことであったが、流れとしては本市とほぼ同様の歩調と感じた。一点違う点はタブレット導入並びにペーパーレス化に際してタブレットに苦手意識がある議員に対してもマニュアルを作成し、ほぼ不平不満なく最終的に全ての議員に受け入れてもらったという点であるのかもしれない。